

# 温泉病院の起工式

## 水俣病患者に明るい前途

湯之見

温泉を利用したりハビリテシー  
シンセンター、水俣市立病院の  
「湯之見温泉病院」起工式は、二  
十日午前十時半から現地で、伊藤  
県医師課長らを迎え橋本市長、尾  
田市議会議長、大橋市立病院長ら  
地元関係者約六十人が参列して行  
なわれ、神事のおと橋本市長のク  
ワ入れなどがあつた。

同センターは「水俣病患者」を  
更生社会復帰させるための治療と  
訓練が目的で、鉄筋コンクリート  
二階建て、一部三階建て、延べ三

千平方メートル。総工費は一億五千万  
円。八十四ベッドと各種機能障害  
にたいする回復訓練装置、温浴装  
置のほか、九州で初めての「塩水  
プール」や九大温研の矢野教授の  
助言によって有明海の「海底土」  
を利用した泥浴施設もつくられ  
る。三十ベッドは水俣病患者を優  
先的に入院させるが、一般患者も  
利用できる。

市内の水俣病患者は六十八人  
で、うち二十人が市立病院に入  
院、残りは自宅で療養を続けている

るが、昨年八月から二カ月間、九  
大温研で研究治療をうけた四人は  
見違えるように元気になって帰っ  
てきた。不治の病気だといわれた  
水俣病に温泉治療がすばらしい効  
果をあげ、水俣病もなおるとい  
うことが立証されたわけで、同セ  
ンターの建設によつて同病患者の前  
途も非常に明るくなった。

五月末ごろには完工の予定だ  
が、敷き地は前に天章を望み、不  
知火海の波が打ち寄せ、緑の山を  
背に負つた風光明媚なところ。近  
くには国民宿舎の建設も予定され  
ており、市内のヘルス地区ができ  
ることになる。